



第2次磐田市環境基本計画
(前 期 計 画)
評 価 報 告

2022(令和4)年3月

磐 田 市



目次

| | |
|-------------------------------------|------|
| はじめに | 3 頁 |
| 基本方針1 暮らしやすさが実感できる環境をつくります | 4 頁 |
| 基本方針2 豊かな自然環境を守ります | 6 頁 |
| 基本方針3 自然・歴史文化とふれあう機会をつくります | 8 頁 |
| 基本方針4 3R の取組みや環境にやさしい消費行動を推進します | 10 頁 |
| 基本方針5 地球温暖化対策に取り組みます | 12 頁 |
| 基本方針6 環境教育を推進します | 14 頁 |



はじめに

第2次磐田市環境基本計画(前期計画)は、磐田市環境基本条例第7条に基づき2018年3月に策定したものです。本市は、これにより環境負荷の少ない持続可能な社会の構築や暮らしやすさが実感できるまちづくりを進めることを基本理念として、豊かな自然環境を将来の世代へ継承するために市・市民・事業者が協同で取り組む具体的な方針を明らかにしました。

この評価報告書は、2018年度から2021年度までの第2次磐田市環境基本計画の取組実績を明らかにし、これを評価したものです。

また、本計画の策定後、世界は「2050年カーボンニュートラル」へ向けて大きく舵を切りました。国も2020年10月にこれを宣言し、本市も「ゼロカーボンシティ」を目指す旨を表明しました。

今回の評価報告は、本市がカーボンニュートラルを目指すための指針となる第2次磐田市環境基本計画(後期計画)の策定にも生かしていきます。

評価報告書の構成

1 活動実績

第2次磐田市環境基本計画(前期計画)は、6つの基本方針を定める中で、それぞれ3つの目標を掲げています。「活動実績」は、この目標ごとの活動について報告します。

2 環境指標と評価

第2次磐田市環境基本計画は、目標を達成する目安として環境指標を定めています。「環境指標と評価」は、これらの到達状況と評価についてまとめています。

| | |
|------|---|
| A 評価 | 目標値を達成している |
| B 評価 | 目標値に及ばないものの、順調に推進している (新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものを含む) |
| C 評価 | 目標値に及ばず、達成状況に遅れがみられる |



基本方針1 | 暮らしやすさが実感できる環境をつくります

暮らしやすさを実感するためには、さわやかな空気や美しい水に囲まれた、騒音や振動・悪臭のない環境が必要です。本市は、これを踏まえて環境調査により大気や水質等の実態を把握するとともに、必要に応じて監視や指導を適正に行うことで地域の生活環境を守っています。

1 活動実績

目標1-1 | 環境保全のための調査・監視・指導

環境の調査・監視・指導及び相談対応

- ・河川、地下水、事業場排水、環境中のダイオキシン類、酸性雨の調査を実施した。(詳細は市政報告書に掲載)
- ・水質事故の対応を適切に実施するとともに、発生原因を調査した。(右表参照)

総合的な環境保全対策

- ・公害苦情発生を未然に防止するため、事業場の設置や増築に対し届け出を義務付けた。
届出受理件数(2018~2021年度:計82件)

| 水質事故報告件数 | |
|----------|----|
| 2018年度 | 6件 |
| 2019年度 | 3件 |
| 2020年度 | 0件 |
| 2021年度 | 0件 |

※水質事故として静岡県に報告した件数

目標1-2 | 快適な生活環境の確保

大気汚染・悪臭対策

- ・屋外の焼却行為に対する指導とともに、市の広報や農業委員会広報紙等で広く市民に迷惑防止に向けた意識啓発をした。
- ・指導件数(右表参照)

騒音・振動対策

- ・騒音規制法や振動規制法等に基づき公害防止に関する指導を行った。
現地指導(2018~2021年度:計68件)

水質汚濁対策

- ・下水処理区域の水質汚濁を防止するため、公共下水道の整備を進めた。
整備面積(2018~2021年度:計142.4ha)
- ・下水処理区域外の水質汚濁を防止するため、合併処理浄化槽の設置にかかる費用の一部を補助した。
補助件数(2018~2021年度:計344件)

事業者への啓発活動

- ・磐田市環境保全推進協議会の環境活動として間伐・植樹作業を実施した。
(2018~2021年度:計4回)

野焼きの指導件数※1

| | |
|--------|-----|
| 2018年度 | 96件 |
| 2019年度 | 84件 |
| 2020年度 | 68件 |
| 2021年度 | 45件 |

(※1) 環境課及び各支所における対応件数

(※2) 2021年12月までの集計

合併処理浄化槽補助件数

| | |
|--------|-----|
| 2018年度 | 75件 |
| 2019年度 | 95件 |
| 2020年度 | 84件 |
| 2021年度 | 90件 |



目標1-3 | 迷惑防止条例を活用した意識啓発の推進

暮らしやすい生活環境の確保

- ・不法投棄の監視パトロールを行う中で投棄物を回収した。不法投棄対応件数（2018～2021年度：計 1,865 件）
- ・雑草繁茂に苦情の寄せられた土地の所有者へ管理に対する指導を行った。指導件数（2018～2021年度：計 1,691 件）
- ・狂犬病予防法に基づき畜犬登録等の推進を図った。また、ペットの飼育マナーを向上させるため、飼い主に対する指導や啓発看板の貸出を行った。畜犬登録数（2021年度末時点：9,034 頭）

市・市民・事業者が一体となった環境美化活動の推進

- ・環境美化の日を広く市民に周知するとともに、市域全体で「環境美化統一行動」としてごみ拾いや草刈りを行った。（2019年度参加者数：24,039人）
- ・まち美化パートナー制度に参加する市民団体の協力を得て不法投棄を防止するパトロールを行った。参加団体数（2021年度：39団体）

| 不法投棄対応件数 | |
|----------|------|
| 2018年度 | 491件 |
| 2019年度 | 495件 |
| 2020年度 | 514件 |
| 2021年度 | 365件 |

環境美化統一行動



※新型コロナウイルス感染用拡大防止のため2020年から2021年まで中止

2 環境指標と評価

| 環境指標 | 指標の内容 | 2022年 (目標値) | 2016年 (実施前) | 2021年 (達成状況) | 評価 |
|--------------|--|----------------|----------------|-----------------|----------|
| 水質に係る環境基準達成率 | 河川(環境基準の類型指定がある地点)におけるBODに関する環境基準を達成した地点の割合 | 100% | 100% | 100% | A |
| 大気に係る環境基準達成率 | 二酸化硫黄(SO ₂)、二酸化窒素(NO ₂)、浮遊粒子状物質(SPM)、微小粒子状物質(PM _{2.5})に関する環境基準を達成した測定地点の割合 | 100% | 100% | 100% | A |
| 汚水処理人口普及率 | し尿・生活雑排水の処理人口(公共下水道+農業集落排水+合併処理浄化槽)/住民基本台帳登録人口 | 92.26% | 88.80% | 91.7% | B |



基本方針2 | 豊かな自然環境を守ります

森林や海岸・河川・池沼等の自然環境に恵まれた本市は、多様な生態系を保ちながら多くの生きものが生息しています。これらは、私たちの暮らしに潤いや安らぎを与える重要な生活基盤です。市は、これを市民共通の財産として守り育て、将来の世代に引き継いでいきます。

1 活動実績

目標 2-1 | 森林保全と緑化の推進

森林の保全と適正管理

- ・静岡県森の力再生事業を活用して荒廃森林の整備を実施した。(2006～2021年度：計255ha)
- ・森林所有者を主体とした森林整備を目的に万瀬地区の森林経営計画を策定した。(2022～2026年度：56.45ha)

緑地の保全及び緑化推進

- ・緑の募金を原資として地域花壇を対象に緑化支援事業を実施した。(2020年63団体 2021年64団体)
- ・花いっぱいコンクールを開催して花の街づくりを推進した(2021年度：20団体)

花いっぱいコンクール



目標2-2 | 河川・海岸・農地の保全

河川の保全・管理

- ・河川を適正に管理するため除草作業を行った。(12河川 2018年～2021年：計96回)
- ・自治会等団体の協力を得て河川・水路等の除草や清掃を行った。(右表参照)
- ・水辺の環境保全活動や河川に親しむ啓発事業「天竜川水辺の楽校いわた」を地域の小学生対象に実施した。(2018～2019年度 参加人数：計360人)
※2020年・2021年はコロナウイルス感染拡大防止により中止

| 河川・水路の除草等活動回数 | |
|---------------|------|
| 2018年度 | 218回 |
| 2019年度 | 219回 |
| 2020年度 | 204回 |
| 2021年度 | 196回 |

※自治会等団体の協力を得て行ったもの

海岸林の保全・海岸美化

- ・市民や市民団体と協働し、防潮堤の法面緑化に取り組んだ。
- ・不法投棄等を防止するため地元自治会へ監視パトロール等を委託して海岸林の美化推進に努めた。(2018～2021年度：計96回)

農地の保全・管理

- ・農業振興地域整備計画に基づき適正な土地利用計画を推進し、優良農地の確保に努めた。
- ・鳥獣被害防止計画に基づき、被害防除・捕獲に取り組んだ。(2018～2021年度 イノシシ計441頭、ハクビシン計15頭、カラス計1,942羽)

2018年度防潮堤植樹祭





目標2-3 | 生物多様性の確保

貴重種や外来種等への対応

- ・ベッコウトンボの生育状況を知るため、調査を行った。(右表参照)
- ・特定外来種等に関する通報等を受けて調査を行った。また、ホームページにおいて外来種について情報を提供した。
(特定外来種の確認件数 2018～2021 年度：計 2 件)

生息・生育地の保全

- ・県や環境保全団体等と協力し、生き物の調査や水質調査、静岡県自然環境保全地域に指定されている桶ヶ谷沼の保全活動を実施した。
(水質調査 3 回/年)
(自然環境保全管理員による巡回 月 4 回以上)

| ベッコウトンボ頭数 | |
|-----------|-------|
| 2018 年度 | 91 頭 |
| 2019 年度 | 102 頭 |
| 2020 年度 | 23 頭 |
| 2021 年度 | 67 頭 |

※調査会において確認された頭数

桶ヶ谷沼保全作業



2 環境指標と評価

| 環境指標 | 指標の内容 | 2022 年 (目標値) | 2016 年 (実施前) | 2021 年 (達成状況) | 評価 |
|-----------------|---|-------------------------------|----------------------|--------------------------------|----------|
| 市民一人当たりの都市公園等面積 | 都市公園等*の市民一人当たり面積 *都市公園、その他公園、交流センター、学校グラウンド、市民農園等を含む | 21.27 m ² (H38) | 15.58 m ² | 15.79 m ² | B |
| 市内の耕作放棄地面積 | 耕作放棄地の面積 | 93.0ha | 98.3ha | 85.4 ha | A |
| ベッコウトンボ定量調査発生数 | 個体調査で確認されたベッコウトンボ*の頭数 *第4次レッドリストで絶滅危惧 I A 類 | 200 頭以上 | 253 頭 | 67 頭 | C |



基本方針3 | 自然・歴史文化とふれあう機会をつくります

良好な自然の景観や歴史文化的な遺産は、私たちが快適な暮らしを営むために重要です。この自然や歴史文化を活かした暮らしやすい街づくりを推進していくことにより、地域が魅力的なものとなるように取り組みます。

1 活動実績

目標3-1 | 人と自然とのふれあい活動の場の創出・活用

自然とのふれあいの場の整備・活用

- ・生き物に対する愛着を育むため桶ヶ谷沼ビジターセンターで自然観察会等を実施した。(右表参照)

| 自然観察会の参加人数 | |
|------------|------|
| 2018年度 | 981人 |
| 2019年度 | 890人 |
| 2020年度 | 173人 |
| 2021年度 | 236人 |

エコツーリズムの推進

- ・静岡遠州観光ネットワークの事業として、中東遠地域におけるサイクルツーリズムの推進を図るため、ガイド付きのサイクリングツアーを開催した(2018年4月・10月、2019年4月)
- ・獅子ヶ鼻トレッキングコースで県や市・スポーツ団体等が協力してトレッキングイベントを開催した。(右表参照)

| トレッキングイベントの参加人数 | |
|-----------------|------|
| 2018年度 | 48人 |
| 2019年度 | 28人 |
| 2020年度 | 211人 |
| 2021年度 | 20人 |

目標3-2 | 周辺と調和した良好な景観の保全・創出

景観形成の推進

- ・地域の景観に大きな影響を及ぼす可能性のある大規模建築物等の建築や開発行為に対して、良好な景観形成を推進するよう適正な誘導に取り組んだ。(右表参照)
- ・景観形成に大きな影響を及ぼす屋外広告物等を基準に基づき指導するとともに、違反広告物の是正を行った。(2018～2021年度の指導件数：計235件)
- ・東海道の宿場町である見付地区において、歴史の趣が感じられる景観の形成を図るため、歴史的建築物の修理等に対し補助金を交付した。(2018～2021年度交付件数：計2件)

| 景観条例に係る届出件数 | |
|-------------|-----|
| 2018年度 | 62件 |
| 2019年度 | 40件 |
| 2020年度 | 34件 |
| 2021年度 | 38件 |



目標3-3 | 歴史文化とふれあう機会の創出・活用

歴史文化遺産の保全

- 重要な歴史資産を適切に次代へ引き継ぐため、国指定文化財をはじめとする各種文化財の整備や保存活用を図った。(2021年度磐田市文化財保存活用地域計画認定 2018年度遠江国分寺跡整備基本計画策定)

歴史文化遺産の活用

- 文化財愛護を広く啓発することを目的に企画展や講座等を開催した。(訪問歴史教室 87 件、案内板の設置・修繕 29 箇所・パンフレットの作成 21 種・いわた文化財だより発行 12 回/年・小学校 5・6 年生向けのふるさと歴史たんけん隊 5 回/年)

国分寺跡再整備事業計画



国指定文化財 旧見付学校



2 環境指標と評価

| 環境指標 | 指標の内容 | 2022年 (目標値) | 2016年 (実施前) | 2021年 (達成状況) | 評価 |
|-----------------------|--|----------------|----------------|-----------------|----------|
| 自然観察会等への参加人数 | 自然観察会や体験教室、環境保全啓発行事等への参加人数 | 700人 | 586人 | 236 人 | B |
| 歴史文化とふれあう施策に満足する市民の割合 | 企画展等で実施するアンケート調査で「満足」「良かった」と回答した割合 | 90%以上 | 83.8% | 90.9% | A |
| 文化財関係施設の入館者数 | 旧見付学校・旧赤松家記念館・埋蔵文化財センター・竜洋郷土資料館・豊岡農村民俗資料館の入場者数 | 48,500人 | 41,010人 | 28,259 人 | B |



基本方針4 | 3Rの取組みや環境にやさしい消費行動を推進します

環境に対する負荷が少ない持続可能な社会を実現するため、これまでの社会のあり方やライフスタイルを見直していくことが大切です。このため資源の循環、ごみの減量と再資源化、水資源の適正利用等の促進に取り組みます。

1 活動実績

目標4-1 | 3Rの推進・廃棄物の適正処理

総合的な廃棄物対策や啓発の推進

- ・ごみの減量及び再資源化を計画的に進めるため「一般廃棄物処理基本計画」を改訂した。(2022年3月)
- ・廃棄物処理施設の適切な管理運営を行った。

3Rの推進

- ・持続可能な資源循環型社会の定着を図るため、3Rの取組みを推進した。
- ・食品ロス・プラスチックごみの削減に関する協定を市内14事業者33店舗と締結した。(2021年6月)
- ・市内小学4年生対象の施設見学会：毎年22校

ごみの適正処理

- ・ごみの分別と適正な排出方法の周知を図った。(ごみ分別ガイドブック・ごみカレンダーを全世帯配布)

不法投棄の防止

- ・不法投棄パトロールを実施する中で原因者特定調査を実施するなど再発防止に努めた。(再掲)

廃棄物の資源化率の状況

| | |
|--------|-------|
| 2018年度 | 18.1% |
| 2019年度 | 16.6% |
| 2020年度 | 17.5% |
| 2021年度 | 20.5% |

※市内のごみ総排出量における資源化物量と焼却灰の資源化量の割合

食品ロス・プラスチックごみの削減に関する協定締結式



目標4-2 | グリーン購入・地産地消等の推進

グリーン購入の推進

- ・再生原料の利用を促進するためグリーンマークやエコマーク等の周知を図るとともに、市役所内のグリーン購入の実施状況を調査した。(グリーン購入達成率 2021年度 92.8%)

地産地消の推進

- ・学校給食地産地消プロジェクトとして地元の生産者が育てた農産物を学校給食に使用し、PRを図った。(2018～2021 生産者学校訪問回数：計5回)

環境にやさしい消費行動の推進

- ・環境に配慮した消費者の養成を目指して、消費者団体と協働でサロンや出前講座などの啓発活動を実施した。(2018～2021 年度活動回数：計44回)

地産地消プロジェクト



※小学校における市内産の野菜「コールラビ」についての展示紹介



目標4-3 | 水循環の確保

水資源の計画的利用

- ・水道事業ビジョンを推進することで良質な水源の維持や施設等の更新等を行った。(耐震化率 23.2%)
- ・計画的に老朽管更新を実施し漏水量の減を図った。(右表参照)

総合的な地下水の保全

- ・静岡県地下水の採取に関する条例に基づき、適正な地下水の利用を図った。
- ・地下水源の利用者で組織する中遠地域地下水利用対策協議会の運営を支援した。
(2021 年度未会員数：159 団体)

雨水浸透及び水源かん養の促進

- ・水源かん養機能を保全するため適正な森林の保全・管理の支援を行った。(2018～2021 年度：計 4 回)【再掲】

| 年度 | 更新距離 (km) |
|---------|-----------|
| 2018 年度 | 11.2km |
| 2019 年度 | 10.0km |
| 2020 年度 | 11.8km |
| 2021 年度 | 9.8km |

水源かん養事業 間伐作業



2 環境指標と評価

| 環境指標 | 指標の内容 | 2022 年 (目標値) | 2016 年 (実施前) | 2021 年 (達成状況) | 評価 |
|-------------------------|---|-----------------------|-----------------|----------------------|----------|
| 1 人 1 日 当たり ごみ排出量 | 一般廃棄物総排出量* / 365 日 / 人口 *一般廃棄物:家庭から排出されるご みと、事業活動で発生するごみのうち 産業廃棄物以外のごみ | 685 g/人・日 (H33) | 697 g/人・日 | 716 g/人・日 | C |
| 地場産物を 使用する割 合 | 学校給食における地場産物を 使用する品目数の割合 | 20% (H35) | 16.3% (H29) | 20.2% (R3) | A |
| 上水道有効 率 | 有効水量(有収水量*1+無収 水量*2) / 総給水量 *1有収水量:料金の対象となった水 量 *2無収水量:料金徴収の対象となら ないが、有効に利用された水量(消火 栓等) | 88.1% | 86.9% | 86.6% | B |

基本方針5 | 地球温暖化対策に取り組みます

深刻化する地球温暖化の主な原因は、私たち一人ひとりの日常生活や事業活動に伴う電気、ガス、石油等の仕様によるエネルギー消費が積み重なって生じたものです。そのため、市は市民や事業者が地球温暖化等の環境問題を理解できるよう啓発するとともに、地球環境保全に向けた取り組みを行います

1 活動実績

目標5-1 | 省エネルギーの推進

総合的な地球温暖化対策の推進

- ・公共施設や事務事業におけるCO₂排出量の削減を目指し、「第2次地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を策定した。（2018年3月策定）

公共施設の省エネルギー対策

- ・省エネルギーを促進するため緑のカーテンを公共施設へ設置するとともに、クールビズを実施した。（本庁舎・支所・市内小学校など）
- ・「エコアクション21」に取組み、温室効果ガスの排出量について削減目標を達成した。（2013年度比 2020年度▲25.7%）

家庭や事業所の省エネルギー対策

- ・事業所における「エコアクション21」の新規認証取得を支援した。（2018～2021年度：計2件）
- ・小学校でアース・キッズ事業やエコパーク見学など、地球温暖化に関する環境学習を実施した。（アース・キッズ事業 右表参照）

交通の省エネルギー対策

- ・温室効果ガスの削減を目指して公共交通の主体である路線バスについてアイドリングストップ運転を導入した。（7路線）

2020年度温室効果ガス排出量

市の施設

24,955.2

磐田市全体

1,381,400t-CO₂

アース・キッズ事業参加者数

| | |
|--------|------|
| 2018年度 | 810人 |
| 2019年度 | 902人 |
| 2020年度 | 798人 |
| 2021年度 | 697人 |

目標5-2 | 地域の特色を活かした再生可能エネルギーの普及促進

再生可能エネルギーの導入

- ・再生可能エネルギーの普及啓発を図るため太陽光発電や蓄電池等の設置に対し奨励金制度を導入した。
- ・クリーンセンターでゴミ焼却熱を利用した発電を行うことで環境負荷の低減に努めた。（2018～2021年度：計53,941,760kWh）

奨励金制度交付件数

| | |
|--------|------|
| 2018年度 | 404件 |
| 2019年度 | 496件 |
| 2020年度 | 416件 |
| 2021年度 | 438件 |

目標5-3 | 低炭素型社会の推進

環境と経済を両立する

ビジネススタイルの促進

- ・ICTによる環境制御等を導入した農水産業を営む事業者に対して補助金を交付した。(右表参照)
- ・再生可能エネルギー率の高い地域新電力「スマートエナジー磐田(株)」により企業や公共施設に電力を供給した。(2022年3月末時点 151 施設)

低炭素なまちづくりの推進

- ・中小企業に対しEVシフトの動向等に関する情報を提供するとともに対応状況の把握に努めた。(市内企業約180社へのアンケートを2回実施)
- ・市内事業者と連携協定を締結し低速自動運転車両の実証実験を支援した。
(2019年度～2020年度 新貝地区)

| 次世代型農水産業 立地促進事業費補助金 | |
|------------------------|----|
| 2018年度 | 2件 |
| 2019年度 | 1件 |
| 2020年度 | 2件 |
| 2021年度 | 1件 |

2 環境指標と評価

| 環境指標 | 指標の内容 | 2022年 (目標値) | 2016年 (実施前) | 2021年 (達成状況) | 評価 |
|------------------|--|--------------------------------|----------------|-------------------|----|
| 公共施設からの温室効果ガス削減率 | 磐田市という事業所が排出する温室効果ガス排出量の削減率 *目標値は「磐田市地球温暖化実行計画(事務事業編)」に準ずる | 4.7% (H30) 16.0% (R5) | ▲8.1% | 25.7% (R2) | A |
| エコアクション21認証登録の継続 | 環境マネジメントシステム「エコアクション21*」認証登録の磐田市役所における継続 *エコアクション21:環境省が策定したあらゆる事業者が効果的、効率的、継続的に環境に取り組むための仕組み | 認証登録を継続 | 認証登録を継続 | 認証登録を継続 | A |
| 住宅用太陽光普及率 | 太陽光発電設備(10kw未満)導入件数/世帯数 *静岡県は、「ふじのくに新エネルギー等導入倍増プラン」で住宅用太陽光普及率10%(2020)を目標地として掲げている | 12.0% | 8.3% | 10.7% (R3年12月) | B |



基本方針6 | 環境教育を推進します

環境問題の解決は、市・市民・事業者が人と環境との関わりなどについて基本的な知識を学び、その理解を深め、環境に対する意識の醸成を行うことが必要不可欠です。そのため地域や学校、保育園、幼稚園、こども園等において幼児から大人まで幅広く環境教育や啓発活動を推進します。

1 活動実績

目標6-1 | 環境教育の推進

学校や保育園、幼稚園、こども園、地域等における環境教育

- ・ 日常の保育・教育の中で、ごみの分別など環境に配慮した取り組みを実践・指導している。
(環境学習実施小学校 22校)
(公立保育園・幼稚園・こども園 23園)

環境体験学習の推進

- ・ はまぼう公園など良好な自然環境を活かして、野鳥観察会を実施した。(2018年5回134人・2019年3回25人)
- ・ 静岡県環境保全地域に隣接した桶ヶ谷沼ビジターセンターを中心にNPO団体が実施する自然観察会を支援した。(2018～2021年度：計74回)【再掲】
- ・ いわたエコパークにある風力発電設備や太陽光発電設備の見学を通じ、再生可能エネルギーについての環境学習を行った。(2018～2021年度：計2回)

野鳥観察会 大池



いわたエコパークの見学



目標6-2 | 環境保全活動の推進

各主体の環境保全活動の推進

- ・ 磐田市環境保全推進協議会の環境保全活動として間伐作業や研修会を実施した。
(2018～2021年度実施回数：計4回)【再掲】
- ・ 事業者の環境マネジメントシステムの認証取得を支援した。【再掲】
(2018～2021年度：計2事業者)

環境保全推進協議会 植樹作業



目標6-3 | 環境情報の活用と 協働による環境施策の推進

環境情報の積極的な提供・活用

- ・アース・キッズ事業や桶ヶ谷沼の保全活動などの情報を積極的に報道機関へ提供した。また、市の広報紙を通じ環境保全活動や自然観察会、迷惑防止等に関する情報の周知を図った。
(広報いわた・ホームページ・いわたホットライン等)

アース・キッズ事業の風景



環境基本計画の推進・見直し

- ・第2次磐田市環境基本計画に定めた施策の取組状況をまとめた「いわたの環境」を毎年度発行し、ホームページで公開した。

協働による環境施策の推進

- ・市民や事業者などの意見を反映するため、市民や関係機関の代表からなる環境市民会議において環境基本計画に対する意見を求めた。
(2018～2021年度：計9回)

2 環境指標と評価

| 環境指標 | 指標の内容 | 2022年 (目標値) | 2016年 (実施前) | 2021年 (達成状況) | 評価 |
|--------------------|--|----------------|----------------|---------------------|----------|
| 環境教育に取り組む学校の割合 | 地球温暖化防止に関することなど環境教育に取り組んでいる小学校の割合 *対象公立小学校 | 100% | 100% | 100% | A |
| 学校給食における残菜量 | 小学校及び中学校における学校給食1回当たりの残菜量の合計 *対象：公立小学校及び中学校 | 6 kg/回 | 6.6 kg/回 | 10.7 kg/回 | C |
| 協働による環境教育に取り組む園の割合 | 環境保全団体や地域と協働で環境教育に取り組んでいる公立保育園、幼稚園、こども園の割合 | 100% | 92.85% | 87% | B |

～第2次磐田市環境基本計画前期計画評価報告～
2022(令和4)年9月26日発行

磐田市環境水道部環境課 環境保全グループ
〒438-8650 磐田市国府台3-1
電話:0538-37-4874
Mail:kankyo@city.iwata.lg.jp